

氏名 羽 原 俊 雄

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 甲 第 249 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和43年 3 月31日

学 位 授 与 の 要 件 医学研究科外科系産科婦人科学専攻
(学位規則第5条第1項該当)

学 位 論 文 題 目 **Studies on Fluidity of blood on the Basis of Fibrinolysis Part IV Catecholanine concentrations (Especially of adrenaline) and fibrinolytic Phenomenon in normal and post-mortem Blood of man and animals**
線維素溶解現象からみた血液の流動性に関する研究
(第IV報ヒトならびに動物性活時および屍血のカテコール
アミン(特にアドレナリン)と線溶現象について)

論 文 審 査 委 員 教授 三上 芳雄 教授 橋 本 清 教授 浜本 英次

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

法医学の分野においてヒト急死屍血の流動性の成因については過去に種々の研究がなされているが、いずれも仮説の域を出ない状態である。著者はこの問題解明の一環としてヒト急死屍血におけるStrep tkinase (SK) 様物質の溶出と屍血の流動性に対してアドレナリン分泌がいかなる 関係を有するかを究明した。すなわちヒト急死屍血におけるアドレナリンの 異常増加と線溶現象および血液の流動性の間には密接な関係があることが解った。この様なヒト急死屍血における異常なアドレナリンの増加は全身の微小循環系に大きな変化を与え、その結果細動静脈壁に多量に内包されていると考えられるSK様物質を血中に解離させ、而して末梢の微小循環系において多量のプラスミンを活性化させ、まだ心臓が動いている間に活性化された多量のプラスミンが末梢より中枢(心臓)へとこぼれて心臓内血液の線溶をひきおこしその結果屍血が流動性を呈するのであろうと考えた。

(The Japanese Journal of Legal Medicine, Vol. 21, No. 4, July 1967)

論文審査の結果の要旨

本研究はヒト急死屍血の流動性の問題解明の一環として、ヒト急死屍血におけるSK様物質の溶出と屍血の流動性にアドレナリン分泌が如何なる関係にあるかを究明したもので、ヒト急死屍血におけるアドレナリンの異常増加と線溶現象 および 屍血の流動性の間に密接な関係にあることを明らかにした価値ある業績と認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。